

## 1 学校の状況と地域の実態

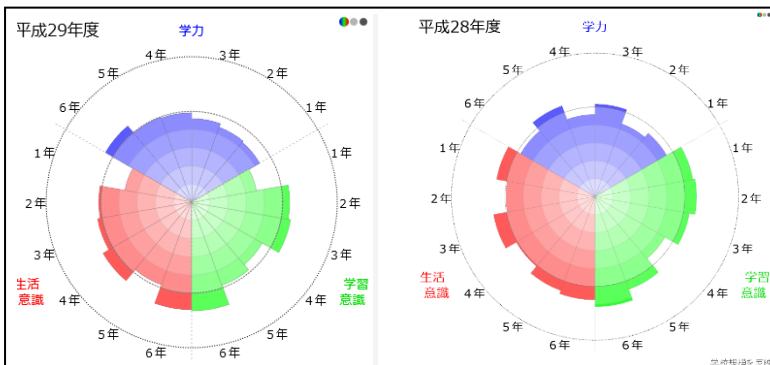
- (1) 各教科・領域における学力の基礎基本の定着を目指して授業研究を実施し、教員の研究・研修を計画的に行っている。
- (2) 小規模校で、かつ経験の少ない教員が多く、基礎的な指導技術を一層身に付ける必要がある。
- (3) 学校全体で特別な支援が必要な子どもへの対応を行っているが、人的確保が難しい状況にある。
- (4) 一日の家庭の勉強時間が40分未満の児童、一日の読書量が30分未満の児童が全体の約5割と、家庭における学習習慣が十分に確立していない傾向がある。
- (5) 「子ども支援隊」を中心に地域ボランティアを活用し、学校・家庭・地域との連携による教育活動を推進している。

## 2 今後3年間の方向（中期学校経営方針）

### 学力向上に関する指導の目標・方針（平成30年度末の姿）

- 「話す」「聞く」「読む」「書く」「計算する」の基礎的な力を定着させるとともに、各教科等で言語活動の充実を図り、市学力学習状況調査の標準化得点が2ポイント向上しています。
- 一人一人の児童のニーズや個の実態に合わせ、ユニバーサルデザインの視点で「わかる・できる」授業ができる指導技術を教師が身に付けています。
- 学校独自の「学びの手引き」に基づいた授業を全職員が行うことで全校の学びが定着し、さらなる実践的な研修・研究を組織的に行っています。

## 3 横浜市学力学習状況調査等からの平成29年度の実態把握



(1) 学力の概要と要因の分析  
 全体的には横浜市の平均的な学力である。しかし、学年によって、平均を上回る学年と下回る学年があり、偏りがみられる。学力層も全学年で見ると、横浜市の平均と同様であるが、A層が少なくD層が多い学年もあり、個に応じた指導を含めた授業改善が必要である。

学習意識、生活意識ともに横浜市の平均をやや上回る状況である。特に、自分からあいさつをしている割合、一日に1時間以上運動する割合が、横浜市の平均より高い傾向にある。しかし、家庭で学習する時間が40分未満の児童の割合が半数を超えることが、基礎的な学力の定着が図りづらい要因の一つになっていると考えられる。

### (2) 教科学習の状況

- 国語科：内容を客観的に捉え、自分の考えをまとめたり文章に書いたりすることが課題
- 社会科：複数の資料を関連付けて、事実をとらえることが課題
- 算数科：計算の技能は平均的であるが、方法や理由を言葉や数を用いて説明することが課題
- 理科：実験や観察などでの知識はあるが、結果を比較したり考察したりすることが課題

### (3) 経年変化の状況と要因の分析(学習・生活意識調査も含めて分析)

経年変化の状況を見ると、学力が全体的に向上し、学年による偏りが小さくなってきている。中学校に向けて、6年生の学力も少しずつ向上しているが、学力層Dの割合が高いため基礎的な読解力に課題がある。学校全体では、自分の考えを表現する機会を増やすようにしたことや、ユニバーサルデザインの視点から「誰もが分かる・できる」授業の改善と環境の充実を図ったことで、学力と学習意識の向上が見られた。

生活意識と学習意識は、ともに昨年度に比べてどの学年も上昇傾向にある。どの学年でも、授業が分かると回答した児童は増加してきているので、他の観点についても意識して取り組んでいきたい。

## 4 平成30年度 目標と具体的方策

平成30年度目標 「自己を見つめ、よりよく生きようとする子の育成」  
～児童の実態に応じた授業づくりと深い振り返りをするための支援のあり方～

### (1) 学校組織としての共通の取組

#### ○基礎的な学力の育成と学習意欲の向上

- ・身に付けたい力を系統的に位置づけ、意図的・計画的に学習を進める。
- ・学習過程を明確に示し、見通しをもって学習したり振り返ったりできるようにする。
- ・ユニバーサルデザインの視点で視覚的な支援をしたり、教室内の学習環境を整えたりする。

#### ○特別支援教育の充実

- ・本校の児童の実情に合った研修会を年2回程度実施する。
- ・ケース会議を適宜行い、支援が必要な子どもへの対応や指導技術に関する実践的な研修を行う。
- ・療育センターや学校カウンセラーによる教育相談等、他機関との連携を図る。

#### ○学年協力体制と研究・研修の充実

- ・校内の「学習の手引き」を活用し、学び方の共通化を図る。
- ・一部教科担任制を行い、教科学習指導の充実を図るとともに、学年協力体制を一層進める。

### (2) 学年・教科等としての取組

#### 1 学年

- 各教科・領域で、自分の考えをもったり、相手に伝えたりする活動を大切にするとともに、「～です」「～ます」などを授業で用いて習慣づける。
- 日常生活での事象や経験を基に、場面に応じて相手の気持ちを考えたりして、学習の楽しさを感じられるようにする。

#### 2 学年

- 各教科・領域で、説明したり紹介したりするなど、表現活動を大切にするとともに、「～です」「～ます」などを用いて対話する場面を授業に位置づける。
- 日常生活での事象や経験を基に、学習課題を作ったり場面に応じて相手の気持ちを考えたりして、学習の楽しさを感じられるようにする。

#### 3 学年

- 各教科・領域や日常生活の中で、報告・説明などの文を書いたり話したりする表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を授業に位置づける。
- 日常生活での事象や経験を基に、学習課題を作ったり場面に応じて相手の気持ちを考えたりして、学習の楽しさを感じられるようにする。

#### 4 学年

- 各教科・領域で自分の考えを表現する活動を大切に。伝える順序を意識したり、理由を挙げて説明したりできるように、簡単な形式を用いて話したり書いたりする。
- 大事な言葉に着目して文章や問題を読み取ったり、話の中心に気をつけて聞いたりする力を伸ばす。そのため、意見を比べながら聞くことや、分かったことを学習感想に書く練習を重ねる。

#### 5 学年

- 各教科・領域において、自分の考えや根拠を簡潔にまとめて記録したり説明したりする場面を位置づけ、表現力を高める。
- 友達の意見との共通点、相違点などを理解し、比べたり取り入れたりしながら、自分の考えを練り上げていかれるよう、グループでの話し合い活動を多く設定する。

#### 6 学年

- 各教科・領域で既習事項を生かして自力解決することを通して、学ぶ楽しさを実感できるようにする。
- 集団で学習していることや生活していることを常に意識し、豊かな関わり合いを通じて、自分の考えを深めていく。
- 教科担任制を取り入れ、教科学習指導の充実を図るとともに、学年協力体制を進める。

#### 個別支援学級

- 小集団での活動を通して、コミュニケーション能力を養う。
- 日常生活において必要な言葉や数の概念の習得を目指し、場面に応じて自分の思いを表現したり、既習内容を活用したりできるようにする。